会社／投資家情報

会社概要

(2020年9月30日現在)

- 商　　号　アリアケジャパン株式会社（ARIAKE JAPAN Co., Ltd.）
- 代 表 者　代表取締役社長　田川 智樹
  代表取締役副社長　岩城 勝利
- 創　　業　1966年6月2日
- 資 本 金　7,095,096千円
- 従業員数　609名
- 事業内容
  1 天然調味料の製造、加工及び販売
  2 農畜産物の生産、加工、輸出入及び販売
  3 水産物の加工、輸出入及び販売
  4 医薬部外品の製造、輸出入及び販売
  5 飲食店の経営
  6 前各号に関連する技術指導業務
  7 前各号に附帯する一切の事業
- 取引銀行　株式会社三井住友銀行
  株式会社三菱UFJ銀行
  株式会社十八親和銀行
- 関連会社
  - 青島有明食品有限公司
  - 台湾有明食品股份有限公司
  - F.P. Natural Ingredients S.A.S.
  - Ariake Europe N.V.
  - Henningsen Nederland B.V.
  - PT. Ariake Europe Indonesia
  - 株式会社エー・シー・シー
  - アリアケファーム株式会社

本社ビル

- 所在地
  - 本社
    〒150-0022
    東京都渋谷区恵比寿南 三丁目2番17号
    電話 03-3791-3301(代表)
  - 九州工場
    ・第1工場
    ・第2工場
    ・中央研究所R&Dセンター
    ・パックセンター
  - 名古屋支店
  - 大阪支店
  - 福岡支店
  - 仙台支店
  - 札幌営業所

株式の状況

(2020年9月30日現在)

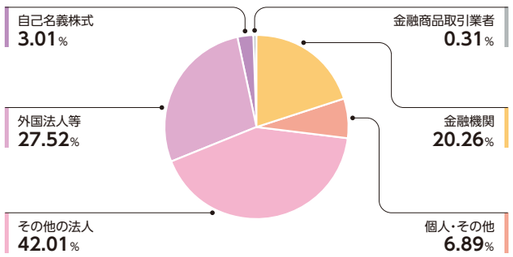
- 発行可能株式総数 …… 130,000,000 株
- 発行済株式の総数 …… 32,808,683 株
- 株主数 …… 8,060 名
- 上場証券取引所 …… 東京
- 証券コード番号 …… 2815

大株主（上位10名）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
ジャパンフードビジネス株式会社	10,608	33.34
公益財団法人岡田甲子男記念奨学財団	2,196	6.90
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,923	6.04
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	1,740	5.47
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,282	4.03
株式会社王将フードサービス	784	2.46
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	535	1.68
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	413	1.30
岡田 直己	412	1.29
株式会社日本カストディ銀行(信託口5)	382	1.20

※1.当社は自己株式を987千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2.持株比率は自己株式を控除して計算しております。
3.持株数は、千株未満を切捨てによって表示しております。

所有者別株式数構成比率



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当基準日	3月31日
第2四半期配当基準日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電　話：0120-232-711（通話料無料） 郵送先：〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	公告URL https://www.ariakejapan.com/

ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっています。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっていますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

UD FONT　VEGETABLE OIL INK　FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 www.fsc.org FSC® C017420　Waterless Printing. Naturally.

アリアケジャパン株式会社

第43期　第2四半期報告書
2020年4月1日 >>> 2020年9月30日

IR Report

自然がおいしい。

https://www.ariakejapan.com/

アリアケジャパン株式会社
証券コード番号：2815

株主の皆様へ

減収減益となるも、独自の強みが強靭さを発揮し、海外事業は堅調、利益率は前年同期並みに推移。今後も、環境と社会との共存関係の発展と、成長戦略を推進。

新型コロナウイルス感染症の影響で減収減益

第43期の第2四半期連結累計期間（2020年4月1日～2020年9月30日）における事業環境は、新型コロナウイルス感染症の流行により、国内外で不透明な状況にありました。

このような状況下で、当社グループはグローバルエンタープライズとして、また、天然調味料におけるリーディングカンパニーとして顧客ニーズを先取りし、全世界の既存事業の拡充と、新規事業の積極的な展開を図りつつ、「食の安全」「健康」「おいしさ」を追求してきました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績については、感染症の影響によるマイナス要因が大きく作用し、前年同期比で減収減益となりました。

欧州・台湾の業績は堅調

地域別では、国内では巣ごもり需要の増大により、食品加工メーカー向け販売が伸長しましたが、外食向けは打撃を受けました。

しかし、海外では、加工食品向けが主流の欧州、また、外食向け比率が高くても感染拡大が抑制されている台湾で、堅調な業績となりました。中国事業の業績は前年同期を下回りましたが、9月末にかけては回復の兆候が表れました。

利益率は前年同期並みに推移

また、効率性、つまり経営の質を示す指標は前年同期並みに推移しています。連結売上高が10.9%減、連結営業利益が21.6%減、親会社株主に帰属する四半期純利益が16.7%減となったものの、連結売上高営業利益率は18.9%、連結当期純利益率は14.0%となりました。

独自の強みが外部環境の逆境に対して強靭さを発揮

この要因は、独自の強みが強靭さを発揮したことによるものです。当社は、畜産系天然調味料市場を早期に開拓し、独自のビジネスモデルを構築してきました。高度な生産能力・技術力、高度な品質・衛生管理能力、世界7極のグローバルな生産体制という強みのシナジーにより、国内外で、外食・中食・加工食品産業などに幅広く強固な顧客基盤を形成していることが奏功しました。

事業基盤の一層の強化へ環境と社会との共存関係の発展に注力

今後も、感染症だけでなく、気候変動による自然災害、人口減少、生活様式の変化、人手不足など、事業環境は不透明な要因を抱えているため、事業基盤の一層の強化が必要であると認識しています。

当社は創業時から原料調達から製品出荷まで環境保全に貢献する事業運営を行っています。主力製品であるスープの原料には畜産のガラなどの天然資源を有効活用し、製造工程から出る残渣も有効活用しており、循環型事業を営んでいます。今後も、自然の恵みを利用する企業として、事業運営とともに、環境保全・循環型社会への貢献、地域社会との共存関係の発展に努めていきます。

新製品の開発、生産体制の増強で、成長へ

さらに新製品の開発、新市場の開拓を推進していきます。欧州では、フランス及びベルギーで製造設備の増強中であり、近年中にその成果が期待できます。中長期的に、連結売上高1,000億円を目標としながら、持続的な事業基盤の構築、イノベーションの追求に努めていきます。

株主の皆様に対しましては、日頃のご支援ご鞭撻に感謝するとともに、今後のさらなるご愛顧を祈念して、当第2四半期末の1株当たりの配当金を予定どおり20円とさせていただきます。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

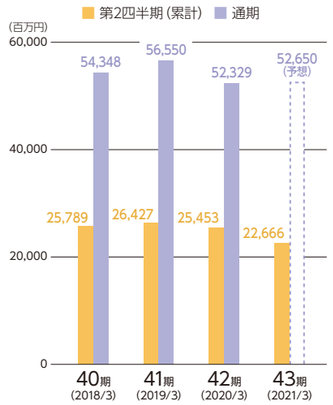
特別相談役
岡田　甲子男

代表取締役社長
田川　智樹

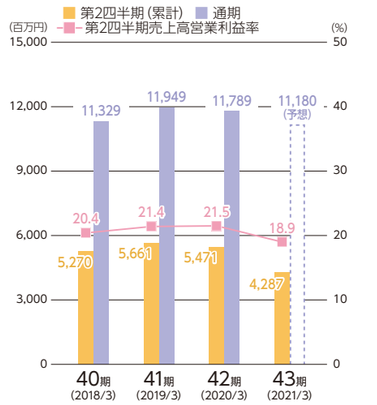
営業の概況（連結）

連結決算のポイント　当第2四半期連結累計期間の決算は、外部環境の悪化により、減収減益となりました。なお、利益率については前年同期並みに推移しています。

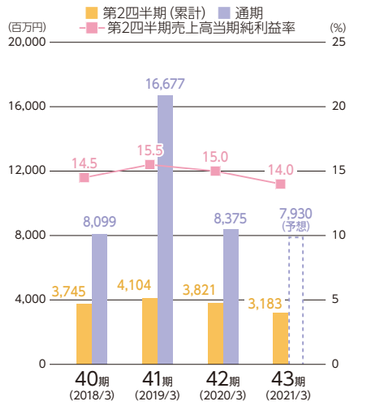
売上高



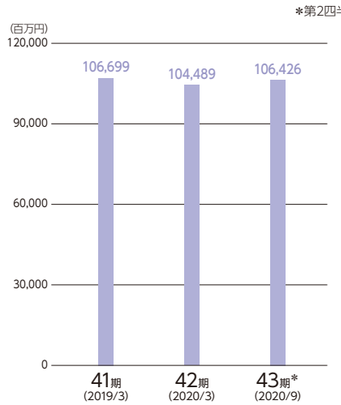
営業利益／売上高営業利益率



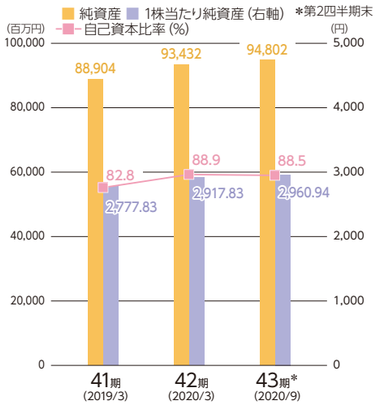
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益／売上高当期純利益率



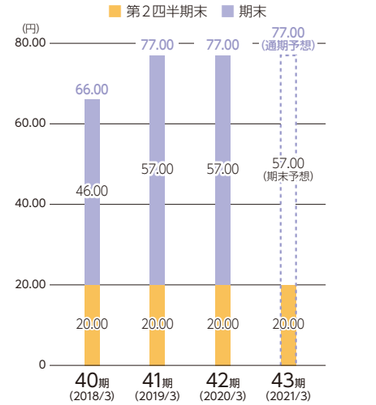
総資産



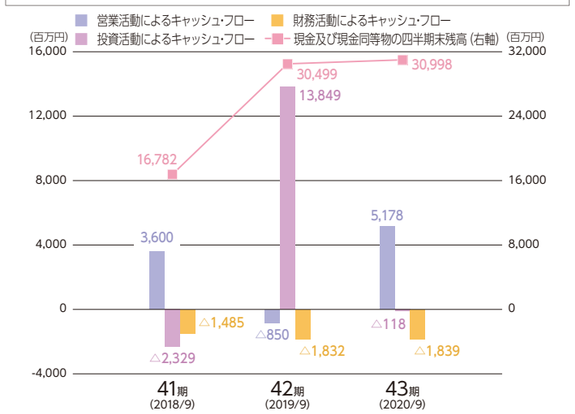
純資産／1株当たり純資産／自己資本比率



1株当たり配当金



キャッシュ・フロー（第2四半期累計）



連結売上高は、前年同期比2,786百万円（10.9%）減の22,666百万円となりました。

連結営業利益は、前年同期比1,184百万円（21.6%）減の4,287百万円となりました。

連結経常利益は、前年同期比1,015百万円（18.0%）減の4,614百万円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比637百万円（16.7%）減の3,183百万円となりました。

なお、利益率については前年同期並みに推移しています。

ホームページでもさまざまな情報をご覧いただけます。
https://www.ariakejapan.com/ または　アリアケ　検索　でご検索ください。

連結財務諸表（要約版）

四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前第2四半期末 2019年9月30日現在	当第2四半期末 2020年9月30日現在	前期末 2020年3月31日現在
資産の部			
流動資産	63,732	**72,558**	70,539
固定資産	39,056	**33,868**	33,950
有形固定資産	19,228	**19,482**	19,579
無形固定資産	531	**421**	483
投資その他の資産	19,296	**13,964**	13,886
資産合計	102,788	**106,426**	104,489
負債の部			
流動負債	8,615	**7,718**	7,343
固定負債	3,764	**3,905**	3,713
負債合計	12,380	**11,624**	11,057
純資産の部			
株主資本	84,441	**89,727**	88,358
その他の包括利益累計額	5,433	**4,491**	4,489
非支配株主持分	533	**582**	584
純資産合計	90,408	**94,802**	93,432
負債純資産合計	102,788	**106,426**	104,489

（注）記載金額は、百万円未満を切捨てによって表示しています。

四半期連結損益計算書

（単位：百万円）

	前第2四半期 自 2019年4月 1日 至 2019年9月30日	当第2四半期 自 2020年4月 1日 至 2020年9月30日	前期 自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日
売上高	25,453	**22,666**	52,329
売上原価	16,235	**14,958**	32,985
売上総利益	9,217	**7,708**	19,344
販売費及び一般管理費	3,745	**3,420**	7,554
営業利益	5,471	**4,287**	11,789
営業外収益	189	**341**	368
営業外費用	32	**14**	250
経常利益	5,629	**4,614**	11,908
特別利益	–	**–**	222
特別損失	–	**–**	–
税金等調整前四半期（当期）純利益	5,629	**4,614**	12,130
法人税等	1,761	**1,397**	3,655
四半期（当期）純利益	3,868	**3,217**	8,475
非支配株主に帰属する四半期（当期）純利益	47	**33**	99
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益	3,821	**3,183**	8,375

（注）記載金額は、百万円未満を切捨てによって表示しています。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

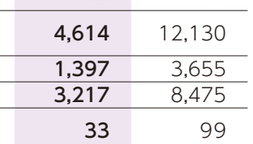
	前第2四半期 自 2019年4月 1日 至 2020年9月30日	当第2四半期 自 2020年4月 1日 至 2020年9月30日	前期 自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 850	**5,178**	1,977
投資活動によるキャッシュ・フロー	13,849	**△ 118**	8,971
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,832	**△ 1,839**	△ 2,476
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 211	**△ 126**	△ 110
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	10,955	**3,093**	8,361
現金及び現金同等物の期首残高	19,543	**27,904**	19,543
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高	30,499	**30,998**	27,904

（注）記載金額は、百万円未満を切捨てによって表示しています。

トピック

ウェブサイトの刷新でコミュニケーションをさらに活性化、強みがわかるコンテンツも新規に開設

ウェブサイトトップページ



アリアケジャパンとは
STORY2 アリアケジャパンの強み

当社は2020年10月ウェブサイトを全面刷新しました。対面でのコミュニケーションの機会が減少する一方で、オンラインツールの重要性が増しています。そこで、これを機に一層ユーザーフレンドリーなウェブサイトを構築しました。

トップページには新規コンテンツ「アリアケジャパンとは」を開設し、当社の特徴・強み・将来ビジョンを紹介しています。

「STORY1　天然素材の美味しさを追求」では製品・生産体制の特徴、「STORY2　アリアケジャパンの強み」では長年かけて構築したビジネスモデルの強み、「STORY3　将来ビジョン」では今後の成長戦略とそれを通した社会的利益に寄与するイノベーションの追求というビジョンを示しています。

特に「STORY2」では、当社の根源的な強みを直感的にご理解いただける内容となっています。当第2四半期連結累計期間の経営成績において、量を示す数値は前年同期を下回ったものの、売上高営業利益率のように質を示す数値は前年同期並みに推移しています。ここで解説している「高度な生産能力・技術力」、「高度な品質・衛生管理力」、「世界7極の生産体制」という3つの強みが、経営の質を支えています。